

製品名: TIMP-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18950**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、ウサギ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	24kDa

抗原情報

遺伝子名	TIMP1 TIMP1; CLGI; TIMP; Metalloproteinase inhibitor 1; Erythroid-potentiating activity; EPA;
別名	Fibroblast collagenase inhibitor; Collagenase inhibitor; Tissue inhibitor of metalloproteinases 1; TIMP-1
遺伝子 ID	7076.0
SwissProt ID	P01033
免疫原	抗血清はヒト TIMP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

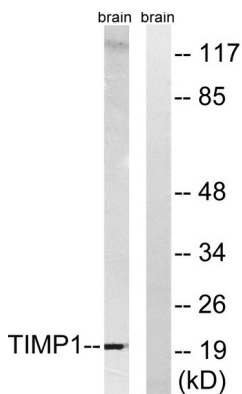
背景

この遺伝子はTIMP遺伝子ファミリーに属する。この遺伝子ファミリーによってコードされるタンパク質は、細胞外マトリックスの分解に関与するペプチダーゼ群であるマトリックスメタロプロテアーゼ（MMP）の天然阻害剤である。既知のMMPのほとんどに対する阻害作用に加え、コードされるタンパク質は幅広い細胞種において細胞増殖を促進し、抗アポトーシス機能も有する可能性がある。この遺伝子の転写は、多くのサイトカインやホルモンに対して高度に誘導される。さらに、不活性X染色体の一部（全てではない）からの発現は、この遺伝子の不活性化がヒト女性において多型的であることを示唆している。この遺伝子はシナプシンI遺伝子のイントロン6内に位置し、逆方向に転写される。[RefSeq提供、2008年7月]、機能：メタロプロテアーゼ（コラーゲナーゼなど）と複合体を形成し、それらを不可逆的に不活性化する。in vitroにおいて赤血球生成を媒介するが、IL-3とは異なり、種特異的であり、ヒトおよびマウスの赤血球前駆細胞のみの増殖および分化を刺激する。MMP-1、MMP-2、MMP-3、MMP-7、MMP-8、MMP-9、MMP-10、MMP-11、MMP-12、MMP-13、およびMMP-16に作用することが知られている。MMP-14には作用しない。PTM：TIMP1の活性はジスルフィド結合の存在に依存する。類似性：プロテアーゼ阻害剤I35（TIMP）ファミリーに属する。類似性：1つのNTRドメインを含む。

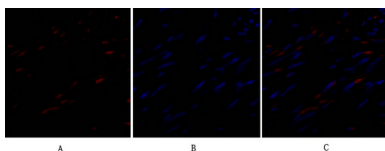
研究分野

心血管系、血管新生、接着/ECM、マトリックスメタロプロテアーゼ、TIMP、シグナル伝達、細胞骨格/ECM、細胞外マトリックス、ECM酵素、TIMP1/TIMP2、がん、浸潤/微小環境、血管新生、ECM酵素、TIMP、がん、細胞生物学、タンパク質分解/ユビキチン、プロテアーゼ阻害剤、メタロプロテアーゼ阻害剤

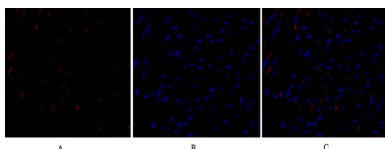
画像データ



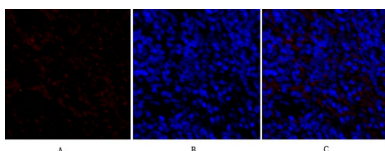
TIMP1抗体を用いたラット脳細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



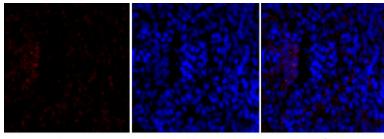
ヒト子宮組織の免疫蛍光染色。1, TIMP-1ポリクローナル抗体（赤）を1:200に希釈（4℃、一晚）。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈（室温、50分）。3, 図B: DAPI（青）10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



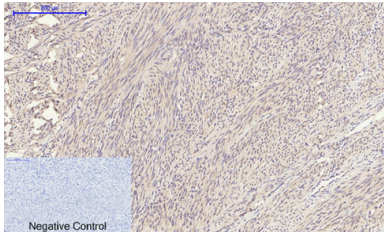
ヒト子宮組織の免疫蛍光染色。1, TIMP-1ポリクローナル抗体（赤）を1:200に希釈（4℃、一晚）。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈（室温、50分）。3, 図B: DAPI（青）10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



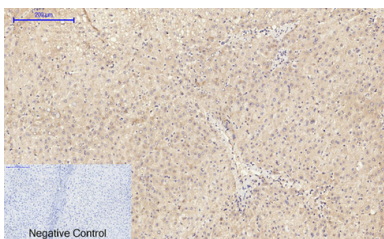
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, TIMP-1ポリクローナル抗体（赤）を1:200に希釈（4℃、一晚）。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈（室温、50分）。3, 図B: DAPI（青）10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bのマージ。



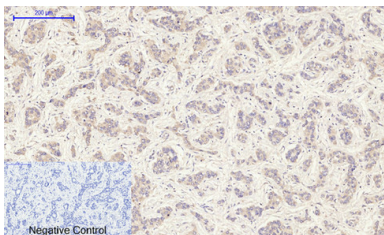
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, TIMP-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



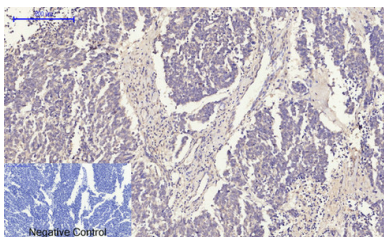
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. TIMP-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. TIMP-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. TIMP-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. TIMP-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。